

基幹連隊指揮統制システムに関する外部評価委員会の概要  
[ 事後評価 ( 技術試験終了時点 ) ]

1 評価対象項目

基幹連隊指揮統制システム [ 事後評価 ( 技術試験終了時点 ) ]  
( 計画担当 : 技術開発官 ( 陸上担当 ) )

2 評価対象事項

マルチキャスト<sup>\*1</sup>通信技術

注<sup>\*1</sup> 1回の通信で複数の人が情報を送付できる機能

3 事業の概要

(1) 開発の目的

普通科連隊及び戦車連(大)隊等の部隊に装備し、師団等と接続した連(大)隊～中隊～小隊以下のコンピュータネットワークを構成して、彼我の状況を把握し、命令等を伝達することにより、火力・機動の指揮・統制を迅速・正確に行うために使用する基幹連隊指揮統制システムを開発する。

(2) 研究開発線表

別紙 1 参照

(3) 試作品の構成

別紙 2 参照

(4) 運用構想

別紙 3 参照

4 外部評価委員会の概要

(1) 日程・場所 : 平成 16 年 7 月 12 日

防衛庁技術研究本部

(2) 評価委員 ( 職名は委員会開催時点、敬称略 )

( 委員長 ) 古賀 義亮 ( 防衛大学校名誉教授 )

中村 康弘 ( 防衛大学校電気情報学群助教授 )

向殿 政男 ( 明治大学理工学部教授 )

脇 英世 ( 東京電機大学工学部教授 )

(3) 説明者 : 技術開発官 ( 陸上担当 ) 付第 6 開発室 竹之上典昭室長他

(4) 試験結果の概要

別紙 4 参照

(5) 議論・質疑が集まったところ

・ミドルウェア<sup>\*2</sup>のシステムの中における役割

- ・通信速度向上の今後の可能性
  - ・IPアドレス付与の考え方
  - ・模擬装置を用いた試験時における輻輳の模擬状況
  - ・全システムが同じ情報を共有しているか（インテグリティ）の確保の考え方
  - ・諸外国のシステムとの、システムの考え方の相違
  - ・隣接する情報共有グループの作成方法
- 注\*2 様々なプログラム(ソフト)において共通的な機能を提供するソフト

(6)要処置・検討事項

特になし

(7)頂いたコメント、提言等

- ・将来が期待される良いシステムを作られた。
- ・ネットワークのスピードアップと抗堪性については今後の課題。

5 外部評価委員会のまとめ

- ・意欲的なシステムであり、帯域が非常に狭い無線環境であるなど限られた条件の中で良くこれだけのシステムを実現された。
- ・さらなるデータ伝送のスピードアップについては、新無線機の開発も含めて、引き続き検討されることを期待する。

## 研究開発線表

年度	13	14	15	16
内容	試作		技術試験	

# 試作品の構成(主なもの)

## 中央処理装置



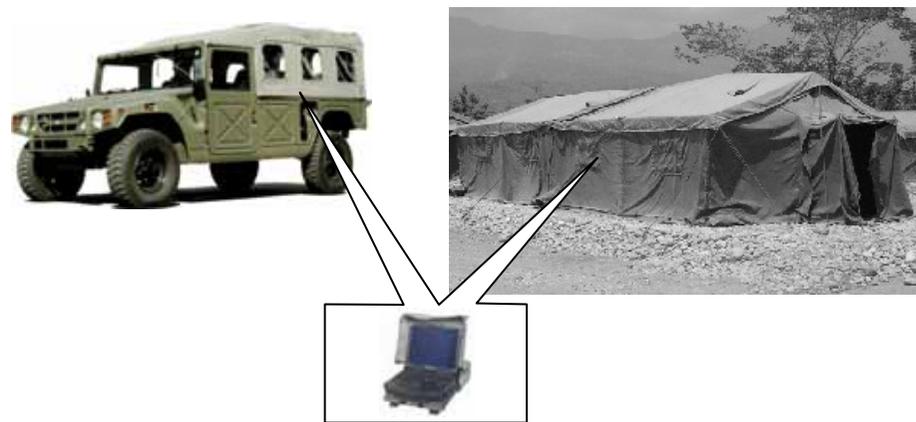
## 連隊本部用装置



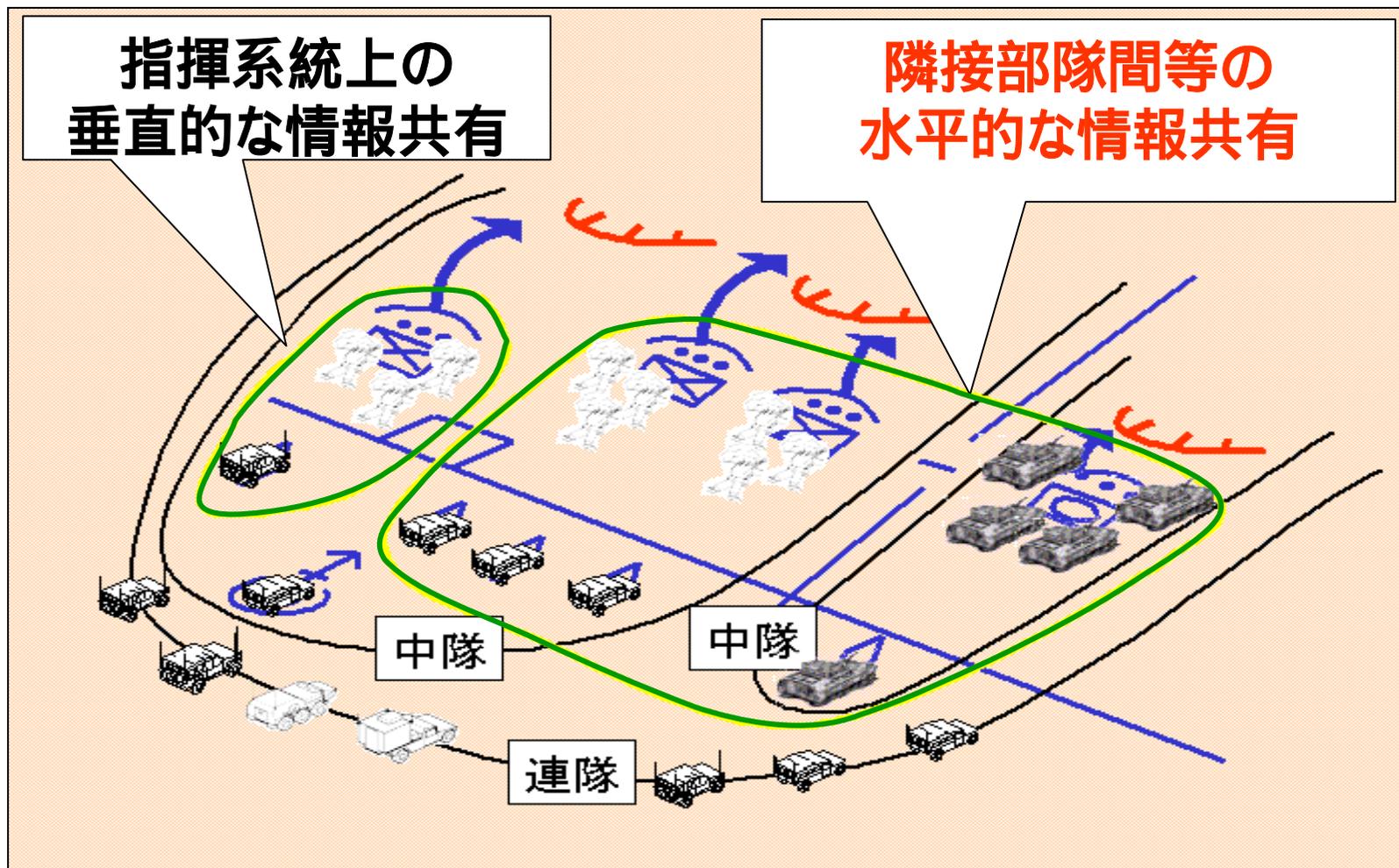
## 指揮官等用携帯装置



## 中隊等用装置

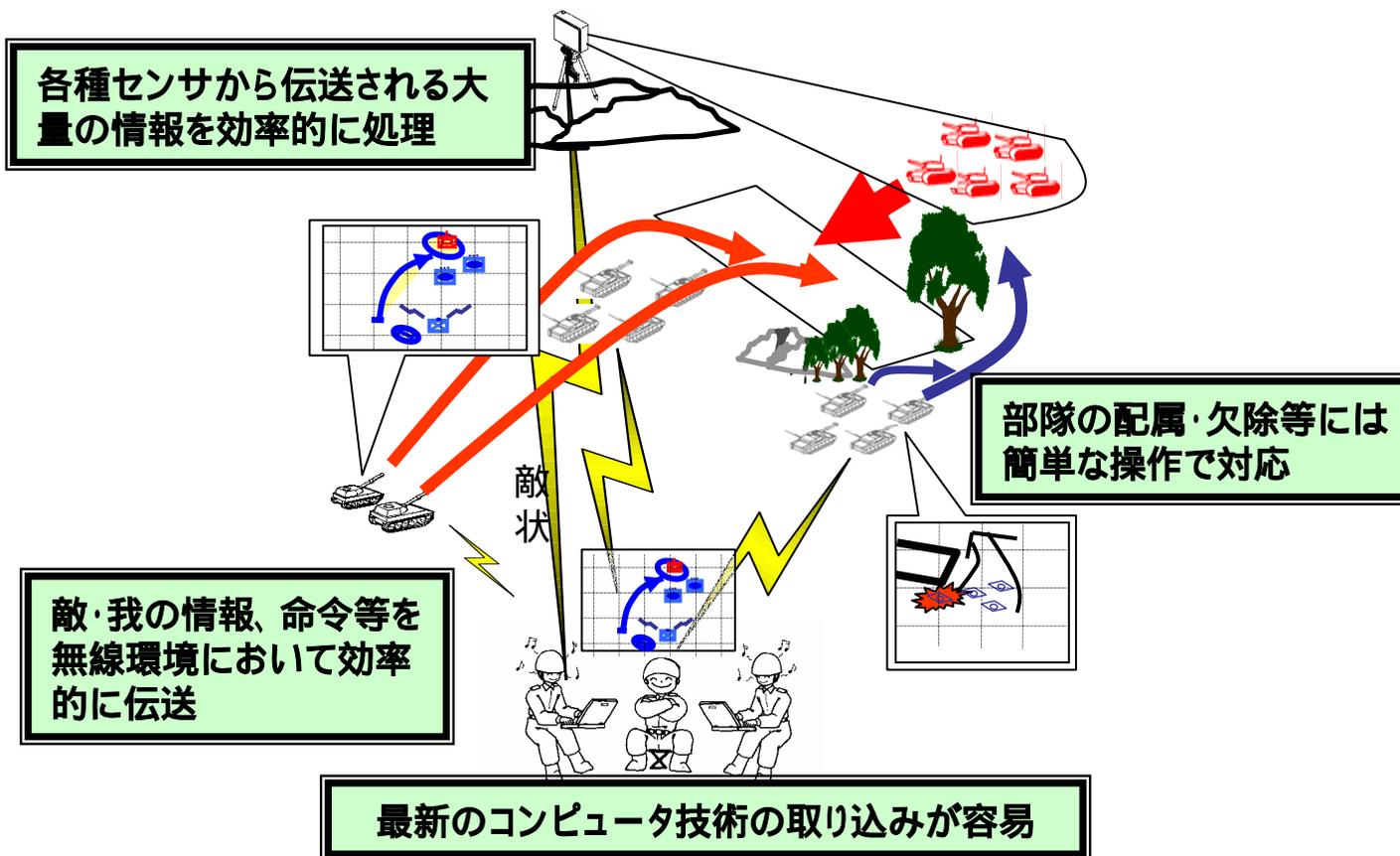


# 運用構想図



# 試験結果 ( 主要な適用業務の伝送時間 )

野外における指揮統制に必要な機能を実現



野外無線機等を用いた野外コンピュータネットワーク上における効率的な「多対多」データ通信を確立した。